

吉川の風

東広島市立吉川小学校
令和8年2月24日
No.24 校長 沖 秀治

未

未という字

秋葉てる代

「否定の意味をもつ字は四つあります。」

非・不・無、そして未。」

国語の時間にならったこと

非常識、不可能、無意味

否定されるのは 悲しい言葉が多い

でも 四つの中で「未」だけは

どこかちがっている

未来 | まだ来ない。でも、いつかきつと

未知 | まだ知らない。いつかきつと

未知 | まだ知らない。いつかきつと

未知 | まだ知らない。いつかきつと

今はないけど でもいつか

否定しながら どこかに希望を残している

パンドラの箱のような「未」という字

私は今 何ももたないけれど

「未」という字にかけてみよう

未完成な 私の未来に

私は非でも不でも無でもなく

まだ「未」なのだ

言うまでもなく、人は完全ではありません。できること、できないことがあって当然だと私は思っています。これは開き直りではありません。こう考えないと生きること自体が苦しくなると思うからです。

大事なのは「自分はこんなことが苦手だ。」「今、ここができていない。」と自覚したら、それを克服するために努力をすること。努力のない所に成長はありません。

年度末まであと1か月余りとなりました。目の前にいる子ども達は、決して「非でも不でも無でもなく」まだ「未」。それぞれの「未」がゆっくりと、しかし確実に未来へ芽吹くことを願いながら、最後まで教職員と共に歩んでいきたいと思えます。



未来を切り拓く道標

子ども達が将来の夢を描く際、教科書等で得る知識以上に価値を持つのは、社会の荒波を乗り越えてきた職業人の「生の言葉」です。今回のキャリア授業では、講師の平野さん（株式会社 HIRANO METAL WORKS 代表取締役）から、子ども達がこれから直面する「正解のない時代」を生き抜くための道標となる言葉を、数多くいただきました。

① チャレンジすることを恐れない

やらずに後悔するより、やって後悔する方がいい。失敗は全て経験となり、それが成長につながる。

② 高い山を乗り越える（Where there is a wall, there is a way.）

つらいこと、苦しいことがあるのは当たり前。山が高ければ高いほど、それを乗り越えた時の達成感は大きい。（壁があるところには、道がある。）

③ 日々の努力の積み重ねは必ず結実する

「継続は力なり」 続けてがんばっていれば、それは必ず何らかの結果につながる。

「先のことを見通すことは苦手でした。その時その時の思いつきで生きてきました。ただ一つ言えるのは、振り返ってみると、何事も一生懸命やってきたような気がします。これまでの経験に無駄なことは一つもありませんでした。」

最後に、平野さんは子ども達にこう語りかけ、授業を終えられました。

人生は一冊の書物に似ている

馬鹿者たちは それをぺらぺらとめくって行くが

賢い人間は念入りにそれを読む

なぜなら彼はただ一度しかそれを読むことができないことを知っているからだ

人生という書物は過去のみが記された書物。これからの生、すなわち未来は、書かれるのを待つ真っ白なページに他なりません。生きるとはその白いページを埋めていくこと。時々刻々変化する自分でいたい。平野さんからのエールを受け取った子ども達が、自分だけの物語をどう書き綴っていくのか、いつかその続きを読ませてもらえたらと思います。



～ 3月に誕生日を迎える児童を紹介します～

3月に誕生日を迎える児童に、次の内容でインタビューをしました。



- ① 好きな給食メニュー ② 好きな遊び ③ ○才になってがんばりたいこと

2年生 内田 桔平さん

- ① カレーライス
普通においしいから
- ② ドッチボール
キャッチしたり投げたりするのが楽しいから
- ③ テニスを習っているので、上手になれるようにがんばりたいです！

6年生 田島 理壺さん

- ① ごはん（白米）
一番シンプルだから
- ② サッカー
点をとるのが楽しいから
- ③ 中学校のクラブでサッカー部に入り、スタメン入りできるようにがんばりたい！